

経営比較分析表（令和3年度決算）

栃木県 宇都宮市

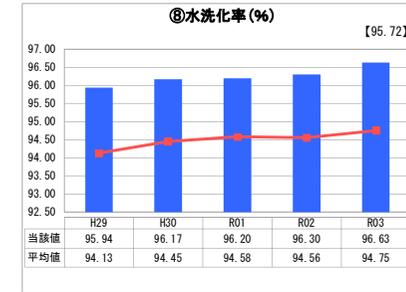
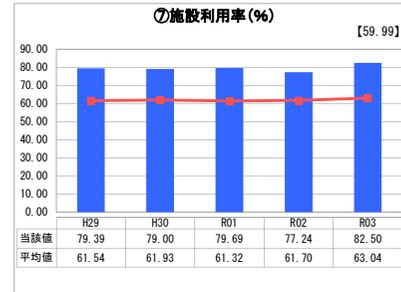
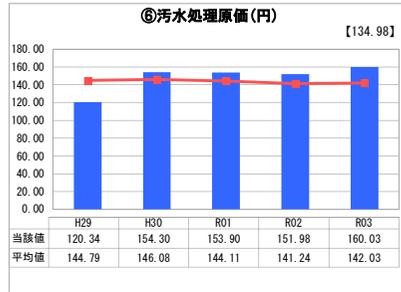
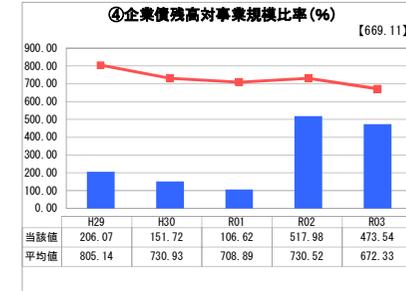
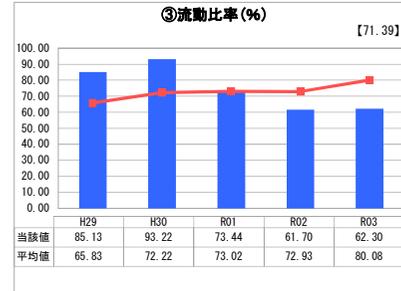
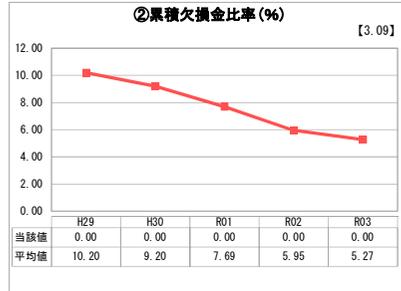
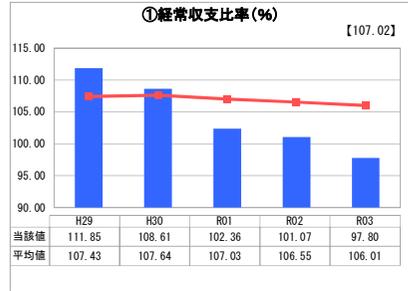
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ac1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	75.81	84.58	64.48	2,695

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
519,136	416.85	1,245.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
437,568	80.74	5,419.47

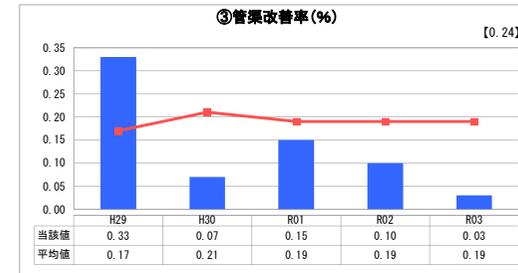
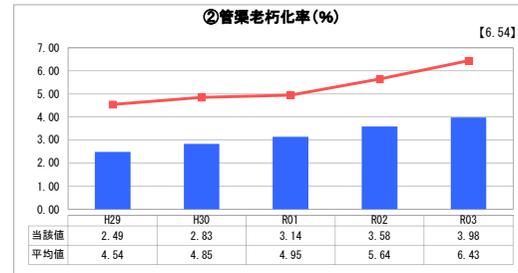
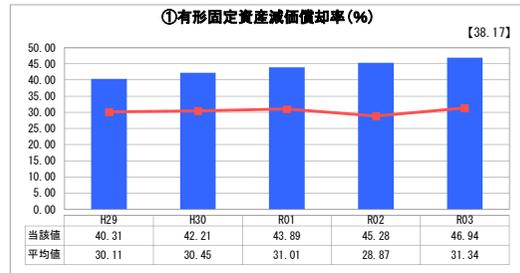
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は一般会計負担金の減などにより前年度比で一時的に低下した。
 「③流動比率」は、未収金が増加したため前年度比で増加した。ただし、類似団体平均値を下回っており分子の流動資産のうち現金預金は年々減少している。
 「⑤経費回収率」は一般会計負担金の減により低下した。下水道使用料収入の減少により、年々低下が続いている。
 また、「⑥汚水処理原価」は前年度比で増加したが、これは、有収水量の減少によるものである。
 「⑧水洗化率」は計画的な管渠の整備及び普及促進活動により、年々上昇傾向にある。
 以上のことから、本市の公共下水道事業は更なる水洗化率の向上を図り使用料の確保に取り組むとともに、汚水処理費の更なる削減が必要である。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、主要施設の経年化の進行により年々上昇を続けている。今後は、計画的に施設の更新を実施することで、この数値は減少する見込みである。
 「②管渠老朽化率」は、法定耐用年数を越えた管渠の増加に伴い、年々上昇を続けているが、類似団体平均値を下回っており、現時点では、類似団体と比較して法定耐用年数を超過した管渠の割合は低い。
 そのため、「③管渠改善率」についても、「②管渠の老朽化率」と同様、類似団体平均値を下回っている。
 以上のことから、現在は施設の老朽化に対し、適正に更新を進められている。

全体総括

公共下水道事業を円滑に進めるために、経常収益を適切に確保するとともに、施設の効率的な維持管理などにより汚水・雨水の処理費用の更なる抑制に努めることで、経営の健全化・効率化を図る必要がある。
 また、今後は管渠の経年化の進行が見込まれるため、点検・調査結果を踏まえ、計画的に更新工事などを進め、老朽化対策を実施していく。そのために適切に企業債等を活用し、財政収支の整合を図りながら計画的に進めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。